

AMDA代表

菅波 茂さん

なぜアジアなのか

—AMDAを設立された背景からお聞かせください。

「私が医学部の学生のころに、アジアに興味をもっている医学生サークルが、全国にいくつもあつたんです。その中で、西日本のサークルを集めて『西日本医学生アジア連絡協議会』をつくりました。

1978年、ちょうど菅波医院を開業した年に、カンボジアの難民がでたんです。そこで、かねがね行動を起こしたいと思っていましたから、『西日本医学生アジア連絡協議会』から医師一人、つまり私ですが、それに医学生2人を、カンボジア難民医療支援に派遣したんです。ところが、カンボジアまで行くには行つたけれど、結局なにもできなかった。と言うより、させてもらえなかった、と言つた方が正解でしょうね。情報不足のため、その時まで私たちは知らなかったのですが、難民キャンプには『国連難民高等弁務官』の運営ルールがあつて、その機関と実施契約したもののだけが働ける。契約していない者は働けないんですよ。無念の思いで引き上げて来ました。そこであきらめていけば、それで終わりだったのですが、いやいやあきらめないぞと(笑)、絶対にやつてみたいと思つたんです。それから5年後の1984年、かつての苦い経験を生かして、『アジア医師連絡協議会』つまり『AMDA』を設立しました」

—なぜそんなにもアジアなのですか。高校2年の時に、太平洋戦争の写真集を見たんです。私と同じくらいの歳の日本兵が、南方戦線で死んでいく。なぜ彼らがこんな所で死ななきゃならない



のか。どうしてもひつかなかつたのです。それとアジアが結び付いた。アジアのもつ活気、多様性。あの混とんとしたところにひかれるんです。とにかくアジアへ行きたい。そこには困っている人がいる。自分は医者だから、医者としてできることは何か。そのあたりがベースにあるようです」

有名になったAMDA

—ここ数年、急にAMDAの名が浮上してきましたね。

「1980年〜1990年の間に多くのNGO(非政府機関)ができて、いま日本全国に300〜400の団体がありますが、その9割が東京に事務所をもっています。都会の方が意識が高くて、お金が集まりやすいですからね。当時、それらのNGOはどれも日本単独の組織で、海

外に人脈をもっていなかったんです。AMDAは岡山ですから、地方都市ではなかなかお金が集まりません。だから派手な活動はできない。じゃあ何をしていたかといいますと、国際会議を開いたり、ニュースレターを出したり、この10年間、ともかく世界各国に人脈を作ろうと努めたんです。結果、AMDAは多国籍の団体になった。それがその後、非常に役にたつたんです。

1990年に湾岸戦争が起こつたでしょう。あの時、日本政府が130億ドルというお金をもって行つても、たいてい感謝されなかつたですね。逆にNGOが注目を集め、国としてもNGOを育てようというので、公のお金を使えるようになった。各団体が息を吹き返したのです。その中でなぜAMDAがあれだけ脚光を浴びたかと言いますと、AMDAは多

国籍の団体だったからですよ。お金さえあれば、世界各国にいくらでもプロジェクトが作れたのです。

—つぎのポイントは、1994年のルワンダ難民の時。この時はAMDAがザイールのゴマに入つてから自衛隊が来ましたが、官民両方入つたということで日本が国際社会から非難されなかつたですね。その後、阪神大震災がありました。NGOが100万人を越すボランティアの受け皿になって動きましたが、AMDAの活動は周知の通りです」

燃えない岡山が燃えた

—阪神大震災の時の岡山は凄かったですね。岡山県民が燃えました。隣の県だつたからでしょうか、広島県はかなりよそ事の感があつたそうです。

「いや、それは県民性でしょう。隣の県というなら大阪や京都はどうですか。燃えてないですよ。広島は私の出身地ですが、サンフレッチェやカープでは広島は燃えるけれど、ボランティアでは広島は燃えないですね。これと対照的なのが岡山で、県民性を実によく表していると思えますね。岡山が燃えたのは、この時1回だけです(笑)」

—確かに岡山は、お祭りは盛り上がりませんね。その反面、ボランティアで燃えたという事でしょうか。

「そういう事ですね。ボランティアスピリッツが豊かなんですよ。だから今後、岡山の活性化を計る時には、観光よりボランティア、国際ボランティア立県が、ひとつの有力な方向だと思いますよ。

—今度の石井新知事が、世界の岡山ということで、『国際貢献大学・災害救助セン

ロマンを持ちつづけること、行動を起こすこと。 国際ボランティア立県が岡山活性化のカギになる。



「ター構想」を選挙公約にいられていましたね。これはやはり、阪神大震災の時に燃えた岡山を下敷きにしています。ぜひ実現してほしいですね」

「岡山のAMDA」というイメージが定着しましたね。

「岡山は医療、教育、宗教を育てる県ですから、NGOの9割が東京でも、都会の根無し草にならないように、AMDAは岡山で根づいていきたいですね。」

私は岡山の精神文化はボランティア精神にあると思いましたが、震災の時あれだけの突出した動きをしたにも拘わらず、県民は当たり前のことをしたと思ってるんですよ。この潜在能力が実は岡山の財産です」



菅波茂プロフィール SUGANAMI SHIGERU
1946年広島県深安郡に生まれる。
1972年岡山大学医学部卒業。
心臓病センター榊原病院勤務などを経て、
1981年菅波内科医院開業。
1989年老人保険施設「すこやか苑」開設。
1984年AMDA(アジア医師連絡協議会)設立。
1995年AMDA国際医療情報センター関西設立。
東大大学院非常勤講師。
阪大文学部非常勤講師。日本プライマリケア学会会員。日本東洋医学学会会員。
AMDA本部 / 〒701-12 岡山市榊津310-1
TEL 086-284-7730
FAX 086-284-8959

援助する側とされる側、 人間の尊厳という点

「例えばカンボジアやルワンダなど、危険をおしてまで、敢えて行く強力な動機は何なのでしょう。ボランティアの根本は、自分が必要とされているという実感です。そう思える

ことで、イキイキした状況に自分を置ける喜びですね。それに、ベンチャースピリットが加味されて、ハイリスク志向をしますから、行く人はみんなイキイキして出て行きますよ」

「では、援助される側にまわると、どういう事が言えますか。」

「援助される側にもプライドがある、という事ですね。難民キャンプの彼らも、何らかの役に立って、生きている意味がほしいんですよ。人間の尊厳はどこまで行っても同じです。」

よく言われるように、彼らの宗教や文化を尊重する事はもちろんですが、それだけでは必要条件であって十分条件じゃあない。彼らも『役に立ちたい』と

いう思いをもっている。だから彼らを立てただけパートナーとして認められるか、にかかってくるね。

これは夫婦関係でも同じでしょう。奥さんが何でもしてしまつて、ダンナの出る幕がない。ダンナは影が薄くなって、自分の存在の意味が分からなくなるから、酒におぼれたり女に走ったりする

じゃないですか。しっかり者のいい奥さんなのにどうしてかと思えば、イコール・パートナーシップが成り立っていない。

でも、日本のダンナはお金を持っているから、それでバランスをとるからまだいいんですよ。難民になると、一方的に援助を受けるばかりで、もう立場がない。それでは彼らのプライドが傷ついてしまう。だから彼らと、できる限りイコール・パートナーシップを持つ努力をします」

「なるほど、見えにくい部分だから、テレビや新聞でニュースを見ていても見落としています、大事なことです。」

「暮らしが貧困だと、つい心も貧困かと思いがちなんです。でも考えてみれば、昭和20年代の日本は今のアジアでしよう？ ハエはうようよいいたし、水洗トイレもなかった。でも、決して心は貧しくなかつたじゃないですか。そう考えれば分かりますよ。支援していく側が、間違えてはいけない事です。」

これは高齢者のケアについても、なんでも同じです。支援を受ける側が、尊厳を傷つけられたと思つたら、もらうものももらつたら早く出て行つてくれと思つてしようね」

「阪神大震災の時は、みんながお互い様だと思ひましたよね。」

「そうそう、あの時は『困ったときはお互い様』という思いが、みんなの中にあつたでしょう。それならいいんです(笑)『今度岡山でなにかあつたら、私たちが支援に行きますからね』と神戸の人達が言いましたよね。中国銀行が『AMDAボランティア定期預金』というのをしたら、県外の店舗の中では神戸が一番多



ルワンダ難民への救援活動(ザイール)

家庭の夫として

「最後に聞き出したのですが、菅波さんがこれだけAMDAに目を向けてこられて、ご家族とか奥様の言分はいいかなものでしょうか。『ああ、それは結婚の時の「公約」に入ってるんですよ(笑) 入れといてよかったな(笑) プロポーズの時に『今後アジアをやつていきたいから』と言ってあるんですよ、大丈夫です。」

「女房も医者ですから、分かってくれているでしょう。女房がいなくなつたら、ここまでできていなくなつたですよ。イコール・パートナーですから、ハイ(笑)」

「アラ、それ書いておきましょうか。『ええ、書いてください。ぜひ。アハハ』」

取材 ● 佐々木志都子 / 丹羽志保子